

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22003

建築物名称	(仮称)クリオ川崎南幸町新築工事
建築主	明和地所株式会社 代表取締役 原田 英明
建築物の所在地	川崎市幸区南幸町2丁目77-1
設計者氏名、建築士事務所名	西田 和行 一級建築士事務所 株式会社洋設計事務所
工事種別	新築
床面積の合計	7,618.04㎡
用途	共同住宅、店舗(バレエ教室)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上13階
工事完了年月	令和6年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クリオ川崎南幸町新築工事	階数	地上13F
建設地	神奈川県川崎市幸区南幸町2丁目77-1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	635人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日	2022年4月15日
敷地面積	1,712 m ²	作成者	西田 和行
建築面積	828 m ²	確認日	2022年4月20日
延床面積	7,618 m ²	確認者	原田 英明



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.3/4.3	2.6
3 敷地内温熱環境の向上			
3.2			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	2.5/3.8	3.3
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 敷地内温熱環境の向上			
3.2			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用	BEIm = 0.89		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	LGS使用している。	2.6/4.7	2.8
2 非再生性資源の使用量削減	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。		
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.2/0.5	2.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	LGS使用している。	2.1/4.0	2.7
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 敷地内温熱環境の向上			
3.2			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用	BEIm = 0.89		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用	BEIm = 0.89		
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート	実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	重点項目	G	W	R		H	評価点	重み係数	評価点	
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						4.0	0.15	3.3	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能					開口部遮音性能T-2以上。	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能							-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	3.0	0.20	
1.3 吸音						4.0	-		-	
2 温熱環境						1.6	0.35	3.3	1.00	2.9
2.1 室温制御						2.2	0.50	3.3	1.00	
1 室温						3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		W			日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	1.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.7	0.25	3.5	1.00	3.3
3.1 昼光利用						4.2	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率					共用部分: 2.5% ≤ [昼光率]。住居部分: 2.0% ≤ [昼光率]。	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口							-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備			W			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御						1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。		-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO ₂ の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.6				
1 機能性									2.4	0.40	2.2	1.00	2.2
1.1 機能性・使いやすさ									3.0	0.40	3.0	0.60	
	1	広さ・収納性								-		-	
	2	高度情報通信設備対応								-	3.0	1.00	
	3	バリアフリー計画							3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性									1.0	0.30	1.0	0.40	
	1	広さ感・景観								-	1.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース							1.0	1.00	1.0	0.50	
	3	内装計画											
1.3 維持管理									3.0	0.30		-	
	1	維持管理に配慮した設計							3.0	0.50		-	
	2	維持管理用機能の確保							3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性									2.8	0.30		-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.0	0.50		-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)							3.0	0.80		-	
	2	免震・制震・制振性能							3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数									2.7	0.30		-	
	1	躯体材料の耐用年数			R				3.0	0.20		-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			R				2.0	0.20		-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R				2.0	0.10		-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔			R				3.0	0.10		-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔			R				3.0	0.20		-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔			R				3.0	0.20		-	
2.4 信頼性									2.8	0.20		-	
	1	空調・換気設備							3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備							2.0	0.20		-	
	3	電気設備							3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法							3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備							3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性									3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり										-	3.2	0.50	
	1	階高のゆとり						階高2.9m以上、3.0m未満。		-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ								-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり										-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性									3.0	1.00		-	
	1	空調配管の更新性							3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性							3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性							3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性							3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性							3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保							3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)									—	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				G	W		H		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0	0.30		-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			G	W		H		3.0	0.50		-	

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	3.2
LR1 エネルギー					0.40	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。	4.0	0.20	4.0
2 自然エネルギー利用	W		H		2.0	0.10	2.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEIm] = 0.89	4.2	0.50	4.2
4 効率的運用					3.0	0.20	3.0
集合住宅以外の評価							
4.1 モニタリング	W		H				
4.2 運用管理体制	W		H				
集合住宅の評価					3.0	1.00	
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	2.7
1 水資源保護	W		R		2.2	0.20	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00	
2 雑排水等利用システム導入の有無							
2 非再生性資源の使用量削減					2.8	0.60	2.8
2.1 材料使用量の削減	W		R		2.0	0.10	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.20	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R	-	3.0	0.20	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R	-	1.0	0.20	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R		2.0	0.10	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R	LGS使用している。	5.0	0.20	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70	
1 消火剤	W				-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W			ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	
3 冷媒	W				3.0	0.50	
LR3 敷地外環境					0.30	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して95%。	3.2	0.33	3.2
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	
2 污水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	
3 交通負荷抑制			R		3.0	0.25	
4 廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	
1 騒音					3.0	1.00	
2 振動					-	-	
3 悪臭					-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	
1 風害の抑制					3.0	0.70	
2 砂塵の抑制					-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	

22003

(仮称)クリオ川崎南幸町新築工事

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に
基づいています。